

令和5年5月29日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題	出雲市内の土地利用型経営体が「次代に続く農業経営を考える会」を発足 ～共につながり、共に農業経営を考えるために～
-----	---

(ダイジェスト)

去る4月5日、出雲合庁を会場に、大規模土地利用型経営体（集落営農法人を除く）の経営者13名が集い、発起人からの趣旨説明に全員が賛同して「次代に続く農業経営を考える会」が発足し、今後も定期的に視察等の活動や情報交換を行っていくことが申し合わされました。

農産物の価格低迷、資材高騰、労働力不足、雇用費の負担増等、農業経営を取り巻く厳しい情勢が続く中、特に複数の雇用人材を抱える大規模土地利用型経営体においては、これまで経験したことのない困難に直面し、経営の舵取りに苦慮しているという声が聞かれます。

そのような中、今年2月に開催された出雲地方農業士会において土地利用型経営体の社長である2名の指導農業士が、「出雲市内の土地利用型経営体がつながり、各経営体抱える問題を共有し、互いに解決を目指していけるような集まりを作りたい」と意気投合されたことをきっかけに、相談を受けた当農業部が、関係機関と連携しながら、会の開催までを支援しました。

会の冒頭、発起人から「うまく解決した事例、失敗した事例もざっくばらんに共有し、片肘を張らない会にしよう」と呼びかけがあり、満場一致で発足が決まりました。

今後の活動について申し合わせがなされた後、関係機関14名も一緒に、3グループに分かれた意見交換を行い、経営品目の選択や省力化の工夫、従業員との接し方等、多くの実践アイデアを共有し、閉会後も夜遅くまで交流が図られました。

中には労力削減ができ、一定の収入が得られるデントコーン栽培に関心を持っていた経営体がこの日を契機に試作に踏み切るなど、新たな動きも生まれています。

当農業部としては、関係機関と連携しながら、今後も本会の活動を支援していくこととしています。



発起人による設立趣旨説明、挨拶



意見交換の様子